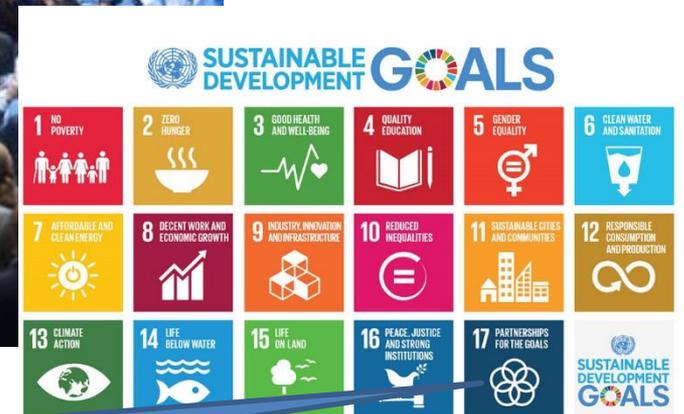


2030年持続可能な開発目標 と 国際環境ガバナンス

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科

環境研究総合推進費戦略課題(S-11)『持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究- 地球の限られた資源と環境容量に基づくポスト2015年開発・成長目標の制定と実現へ向けて -』プロジェクトリーダー

蟹江憲史



17 goals
169 associated targets
Indicators to be decided in March 2016

- https://www.youtube.com/watch?v=RpqVmvMCmp0&feature=player_embedded

SDGsとは？

- 2012年のリオ+20（国連持続可能な開発会議）により設定が合意された国際目標
 - ポスト2015年開発アジェンダ（ミレニアム開発目標後の国際目標）に統合
- 2013年～2014年 国連でのオープンな作業部会（OWG）による国際交渉
 - 2014年の国連総会でOWG提案採択（17目標、169ターゲット）
- 2015年 ポスト2015年開発目標交渉
- 2015年9月国連総会にて採択



- 『目標 - ターゲット - 指標』の三重構造
- 進捗状況のモニタリングと評価を実施（法的義務はなし）
- 2030年を目指した目標
- グローバルな性質ですべての国に普遍的に適用可能
- 様々な国別の状況、能力、開発レベルや政策及びその優先順位を考慮





THE WORLD COMMISSION
ON ENVIRONMENT
AND DEVELOPMENT

1972年 国連人間環境会議（ストックホルム会議）

1987年 『ブルントランド委員会報告書 (Brundtland Report)
- Our Common Future -』

1992年 環境と開発に関する国連会議（UNCED：地球サミット）

- ⇒ 「環境と開発に関するリオ宣言」「アジェンダ21」の採択
- ⇒ 「気候変動枠組み条約 (UNFCCC)」「生物多様性条約 (CBD)」の採択
- ⇒ 「地球環境ファシリティ (GEF)」「国連持続可能な開発委員会 (UNCSD)」の創設



1995年 世界社会開発サミット

2000年 国連ミレニアムサミット

- ⇒ 「ミレニアム宣言」の採択
- ⇒ 「ミレニアム開発目標 (MDGs)」の検討、採択 (2001年)

2002年 持続可能な開発に関する世界首脳会議
(WSSD：ヨハネスブルグ・サミット)
⇒ 「ヨハネスブルグ実施計画」の採択



2012年 国連持続可能な開発会議（UNCSD, Rio+20）

2015年以降の「開発」アジェンダ／持続可能な開発目標 (SDGs)



Transforming Our World
The 2030 Agenda for Sustainable Development

「開発」目標から「持続可能な開発」目標へ



17目標
169ターゲット
2016年3月に指標が決定



SDGsの長所と短所 (特徴)

長所

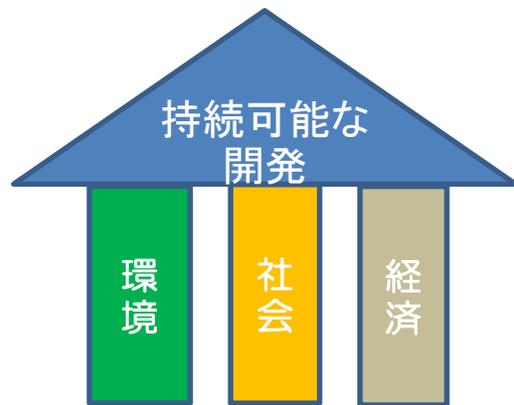
- ❑ **包摂性**：「誰一人取り残されない」
- ❑ **普遍性**：先進国・途上国共に適用
- ❑ **多様性**：目標値は（世界全体の達成目標を視野に入れた上で）国レベルで設定可。指標は地域・国レベルで補完される。
- ❑ **統合性**：経済、社会及び環境の3つの次元が統合へ。
- ❑ **行動性**：具体的行動の実施へ。

短所

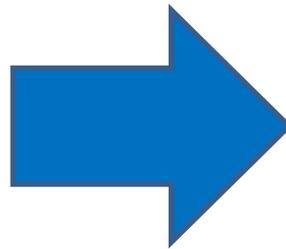
- ❑ 多すぎる目標（17 Goalsと169 Targets）
- ❑ 理解が容易ではない。
- ❑ 先進国における関心が低い。
- ❑ 法的拘束力がない。



環境政策は 経済・社会の持続可能性との統合へ



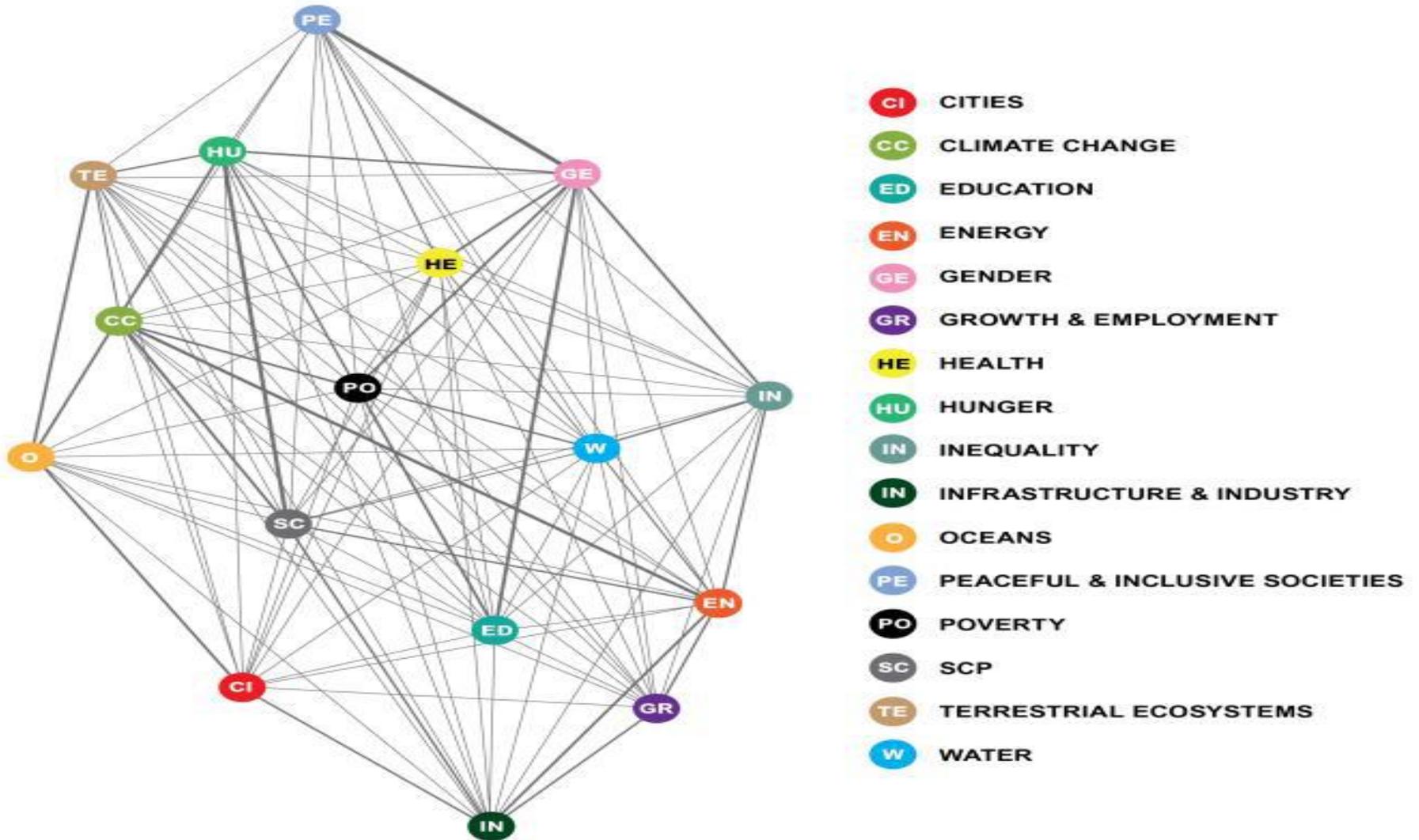
20世紀型
持続可能な開発
(環境は独立した柱)



21世紀型
持続可能な開発
(環境は統合された重要な一部)

David Griggs et al. 'Sustainable Development Goals for People and Planet.' *Nature* (Vol 495, 21 March 2013).

SDGsの目標間のリンク

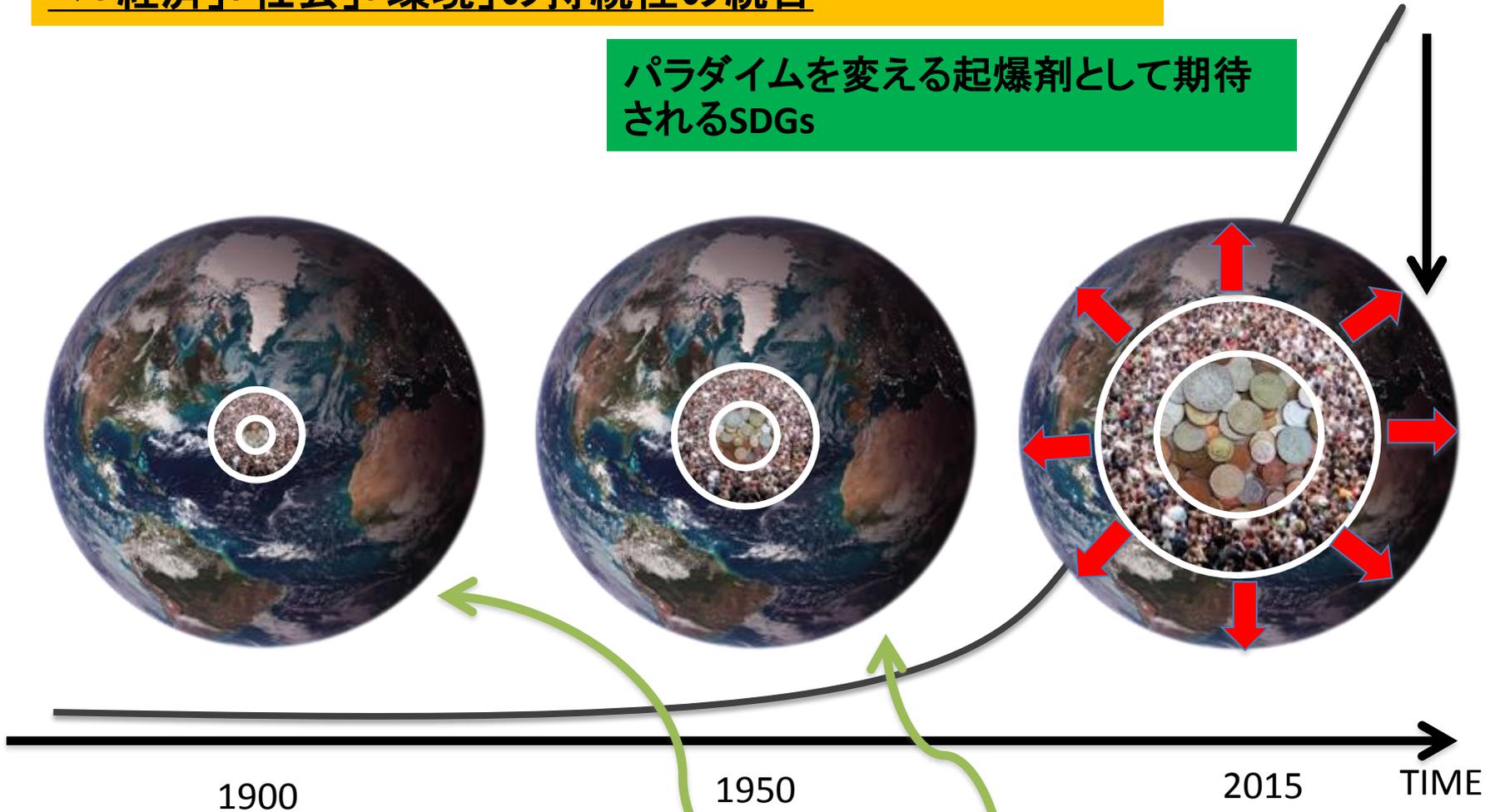


SDGs時代の「持続可能な開発」

⇒地球システムの許容範囲内で開発・成長を続けること

⇒「経済」「社会」「環境」の持続性の統合

パラダイムを変える起爆剤として期待されるSDGs



'Sustainable Development Goals for People and Planet.' *Nature* (Vol 495, 21 March 2013). By David Griggs, Mark Stafford-Smith, Owen Gaffney, Johan Rockstrom, Marcus C Ohman, Priya Shyamsundar, Will Steffen, Gisbert Glaser, Norichika Kanie and Ian Noble

現代人の思考・
制度のベース

SDGsの3つの背景

1. MDGsの残された課題の達成
2. 地球システムの限界からもたらされる新たな課題(気候変動の植生・健康への影響など)
 - 問題の相互関係・相互作用(規模や範囲を超えて): ある国での原因が他の国での影響に
3. ガバナンス: 多様なステークホルダー
 - 多様な課題解決
 - 新たな考え・アイディア・ネットワーク
 - 如何にステークホルダーを巻き込むか



ミレニアム開発目標(MDGs)

- 2015年の国際開発目標 -

目標と主なターゲット



目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅

- 1日1.25ドル未満で生活する人口の割合を半減させる
- 飢餓に苦しむ人口の割合を半減させる



目標2: 初等教育の完全普及の達成

- すべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする



目標3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上

- すべての教育レベルにおける男女格差を解消する



目標4: 乳幼児死亡率の削減

- 5歳未満児の死亡率を3分の1に削減する



目標5: 妊産婦の健康の改善

- 妊産婦の死亡率を4分の1に削減する



目標6: HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止

- HIV/エイズの蔓延を阻止し、その後減少させる



目標7: 環境の持続可能性確保

- 安全な飲料水と衛生施設を利用できない人口の割合を半減させる



目標8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

- 民間部門と協力し、情報・通信分野の新技术による利益が得られるようにする

*ロゴは「特定非営利活動法人ほっとけない」世界のまずしさ」が作成したもの。

MDGs進捗・チャート2014

	目標	目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅			目標2: 初等教育の完全普及の達成	目標3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上			目標4: 乳幼児死亡率の削減	目標5: 妊産婦の健康の改善		目標6: HIV/AIDS、マラリア、その他の疾病のまん延の防止		目標7: 環境の持続可能性確保			目標8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進
		極度の貧困半減	生産的かつ適切な雇用	極度の飢餓半減	初等教育の完全普及	初等教育における女性の就学率	女性賃金労働者の割合	国会における女性議員の割合	5才以下死亡率2/3削減	妊産婦死亡率3/4削減	リプロダクティブ・ヘルスへのアクセス	HIV/AIDSまん延防止	結核まん延防止	安全飲料水のない人口半減	衛生設備のない人口半減	スラム居住者の生活改善	インターネット利用者
アフリカ	北	緑	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄
	サブ・サハラ	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄
アジア	東	緑	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄
	東南	緑	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄
	南	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄
	西	黄	黄	赤	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	赤	黄	黄	黄	赤	黄
オセアニア	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄
ラオ・カノブ	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄
中央アジア・コーカサス	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄

◆情報源: FAO, IPU, ILO, ITU, UNAIDS, UNESCO, UN-HABITAT, UNICEF, 国連人口部, 世銀, WHOにより提供された2014年6月現在のデータ及び推計。

◆枠内の色は、2015年の目標達成に向けた**進展の度合い**を表したものである。従って、各地域の状況の良し悪しと関連がある場合が多いが、必ずしも各地域の状況自体を表したものであるのではない。

- 目標達成済み、または、2015年までに目標達成が見込まれる。
- 進展なし、または、悪化。
- 現状のままでは2015年には目標達成不可能。
- データが不十分。

編集: 国連経済社会局統計部(外務省仮訳)

主たるMDGsの評価

評価された点

内容:

- 貧困レベル等の改善、開発援助の増進、多様なステークホルダーの参加促進 (UNGA 2011a; UNDP 2011)

目標設定:

- セクター間のリンケージ (Vandermoortele 2011)
- 明確で包括的な目標設定

制度のあり方:

- 効果的な実践を確保するための制度の存在
- 結果ベースのマネジメント方法 (Result-base management) の定着化

資金確保:

- ODAの増加、途上国で貧困撲滅などに関する政策の優先順位を上げた (Moss 2010; Pollard et al. 2010; Manning 2010; Verdermoortele 2011)

改善すべき点

- 各MDG目標における具体性と包括性欠如によりいくつかのMDGsは達成できず
⇒ **実効性の強化**が必要

- MDGsは “One size fits all” 型
⇒ 各国や各目標の達成度における「ギャップ」が存在 (Verdenmoortele 2011)
⇒ 重要課題も含めた **ユニバーサルな目標設定** と **(国・地域・地方等) 個別目標**

- MDGs達成後の目標、課題間のリンケージが欠如 ⇒ その後の **ロードマップ** が見えない
⇒ 中間目標 (intermediate) 目標を定め、目標達成の基準を明確化 (Poku et al. 2011; Moss 2010; Verdenmoortele 2011; Guardian 2010; Koehler et al, 2012).

SDGsの3つの背景

1. MDGsの残された課題の達成

2. 地球システムの限界からもたらされる新たな課題(気候変動の植生・健康への影響など)

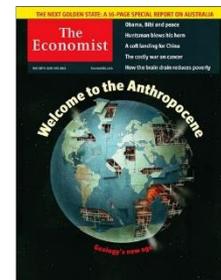
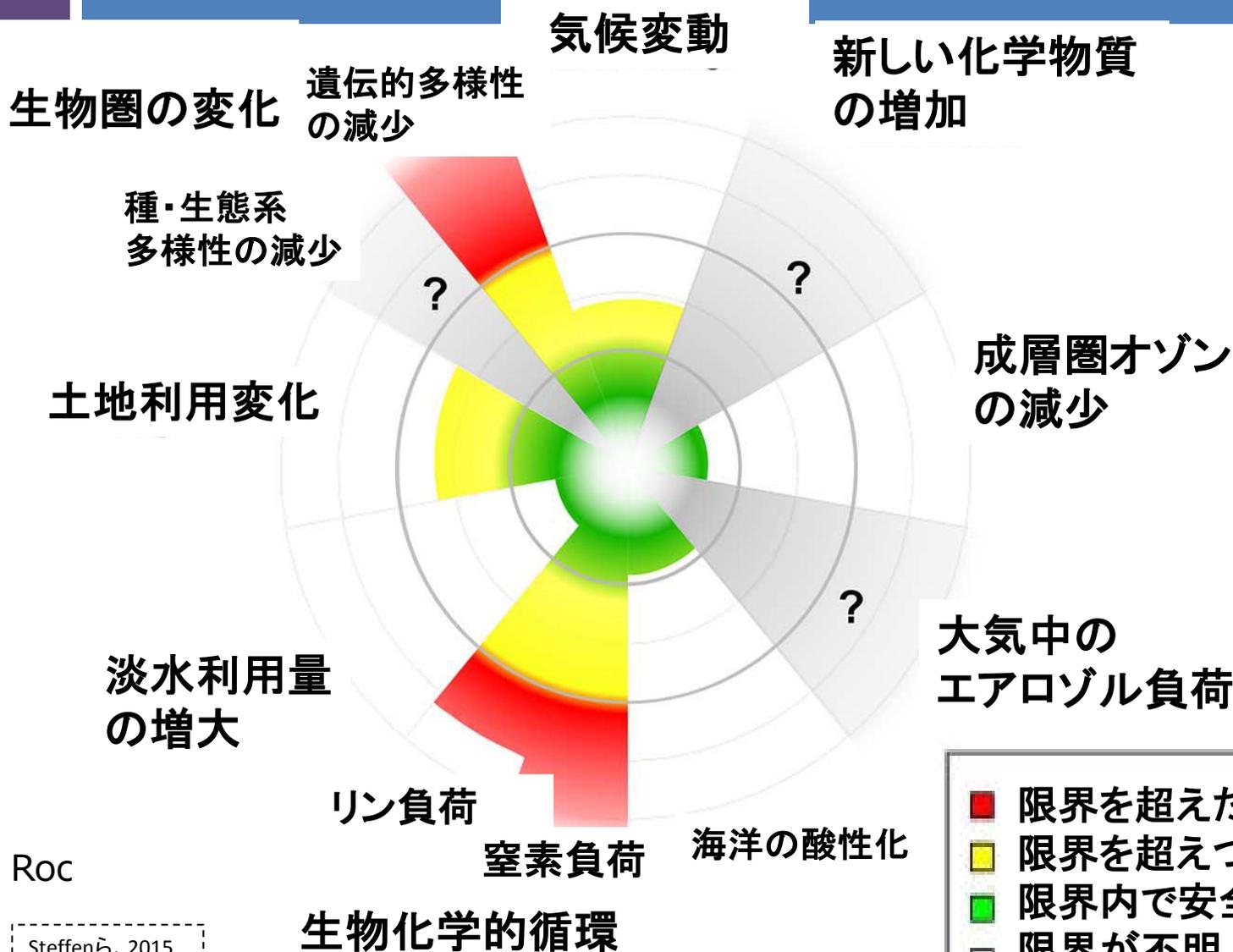
- 問題の相互関係・相互作用(規模や範囲を超えて): ある国での原因が他の国での影響に

3. ガバナンス: 多様なステークホルダー

- 多様な課題解決
- 新たな考え・アイディア・ネットワーク
- 如何にステークホルダーを巻き込むか



Planetary Boundaries – 地球システムの境界 –



⇒ 環境問題の「質」の変化
 身近な環境問題からこれにプラスして地球変動の課題へ
 Cf.「人類世 (anthropocene)」 (Crutzen 2002)

- 限界を超えた危険な状態
- 限界を超えつつある状態
- 限界内で安全な状態
- 限界が不明

Roc

Steffenら、2015, Scienceより作成



2014.8.21 Hiroshima



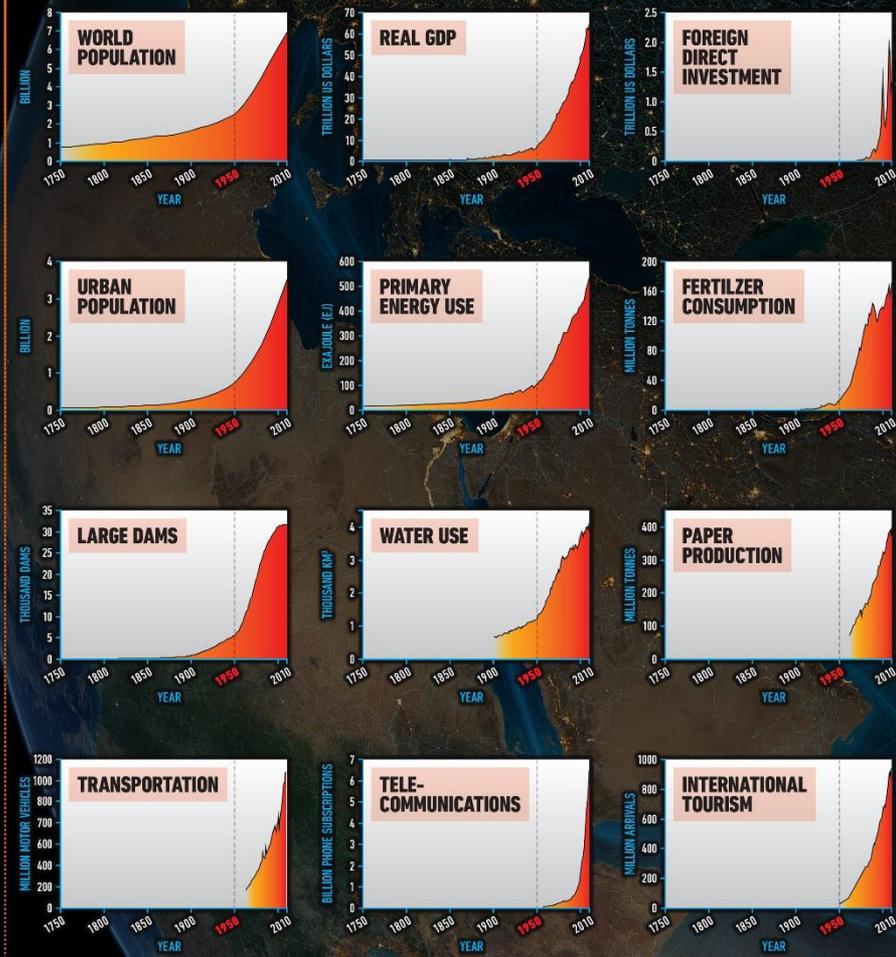
Phillipine 12 Nov. 2013



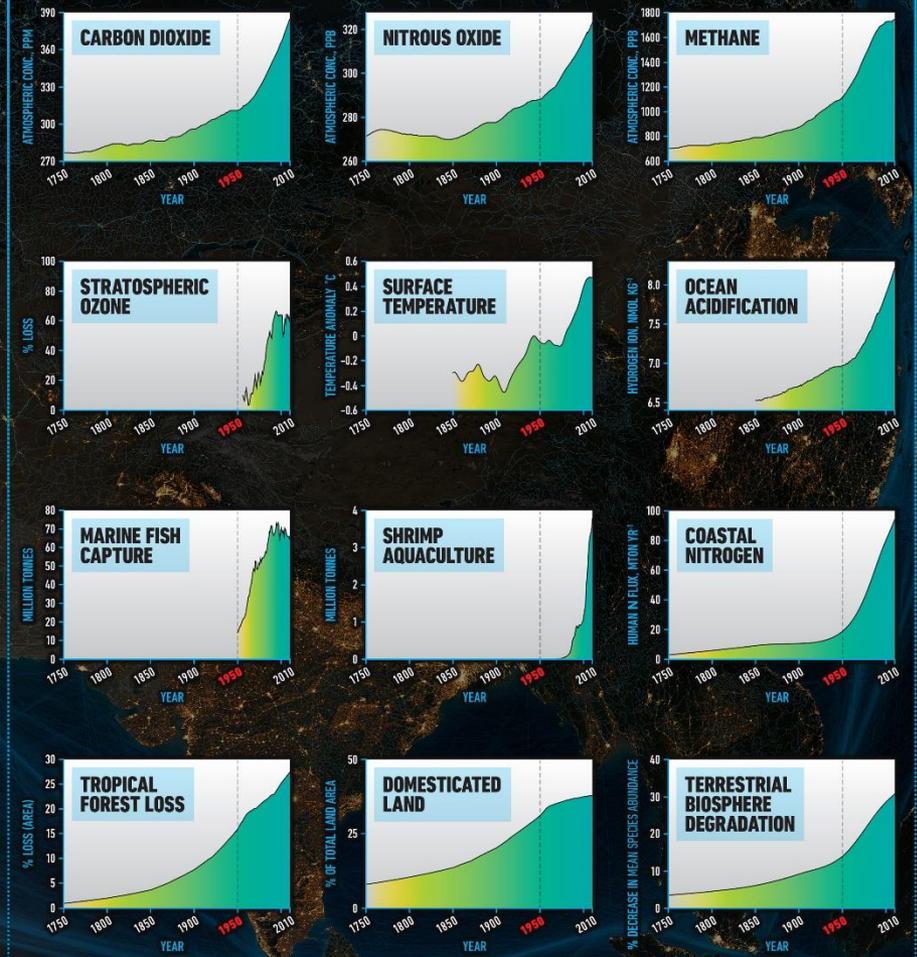
2015.9.10 Kinugawa

THE GREAT ACCELERATION

SOCIO-ECONOMIC TRENDS



EARTH SYSTEM TRENDS



REFERENCE: Steffen, W., W. Broadgate, L. Deutsch, O. Gaffney and C. Ludwig (2015). The Trajectory of the Anthropocene: the Great Acceleration, Submitted to *The Anthropocene Review*.

MAP & DESIGN: Félix Pharand-Deschênes / Globaia

➡ 限りある資源をいかに分け合いながら共存するか？

<https://vimeo.com/145400647>

SDGsの3つの背景

1. MDGsの残された課題 (human well-being)
2. 地球システムの限界からもたらされる新たな課題 (気候変動の植生・健康への影響など)
 - 問題の相互関係・相互作用 (規模や範囲を超えて): ある国での原因が他の国での影響に

3. ガバナンス: 多様なステークホルダー

- 多様な課題解決
- 新たな考え・アイデア・ネットワーク
- ステークホルダーの巻き込み

国家を超えた
21世紀型の問題
解決



SDGs実施へ向けたガバナンスは 従来の環境ガバナンスを補完する可能性がある

多国間環境条約（気候変動枠組条約のようなもの。MEAs）

⇒ ルールに基づくメカニズム

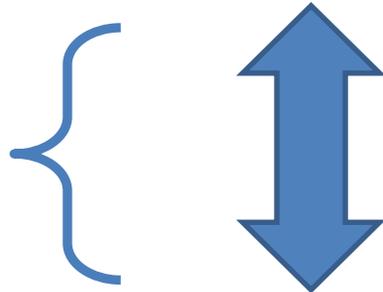


近年は困難に直面（例えばコペンハーゲンCOP15）



できることをプレッジする積み上げ式傾向で
十分なアクションがとれず

環境を含む持続
可能な開発実現
への新たな仕組
みとなる可能性



- 野心レベルを向上
- 統合的アプローチ推進
- 条約に含まれない課題をハイライト(ex. SCP)

SDGs: 目標から始めて野心レベルの提示(aspiration)

実施メカニズムは なし

モニタリングと評価のみがメカニズム

SDGsの今後の課題



1. 実施メカニズム(制度)の確立

1. 「誰も置き去りにしない」

- 格差解消、そのためには統合的解決が必要



2. 新たなグローバルガバナンスの仕組み確立

- 気候変動COPなどの法的枠組みの限界→「目標によるガバナンス」の挑戦
- 国連の仕組みとしてハイレベルで政治的指針
- 国や地域でのテーラーメイドの実施
- ステークホルダーによる新たな仕組み創出
 - 日本でも対応が必要



→ 課題: 統合的な(横断的)課題解決の制度を作れるか

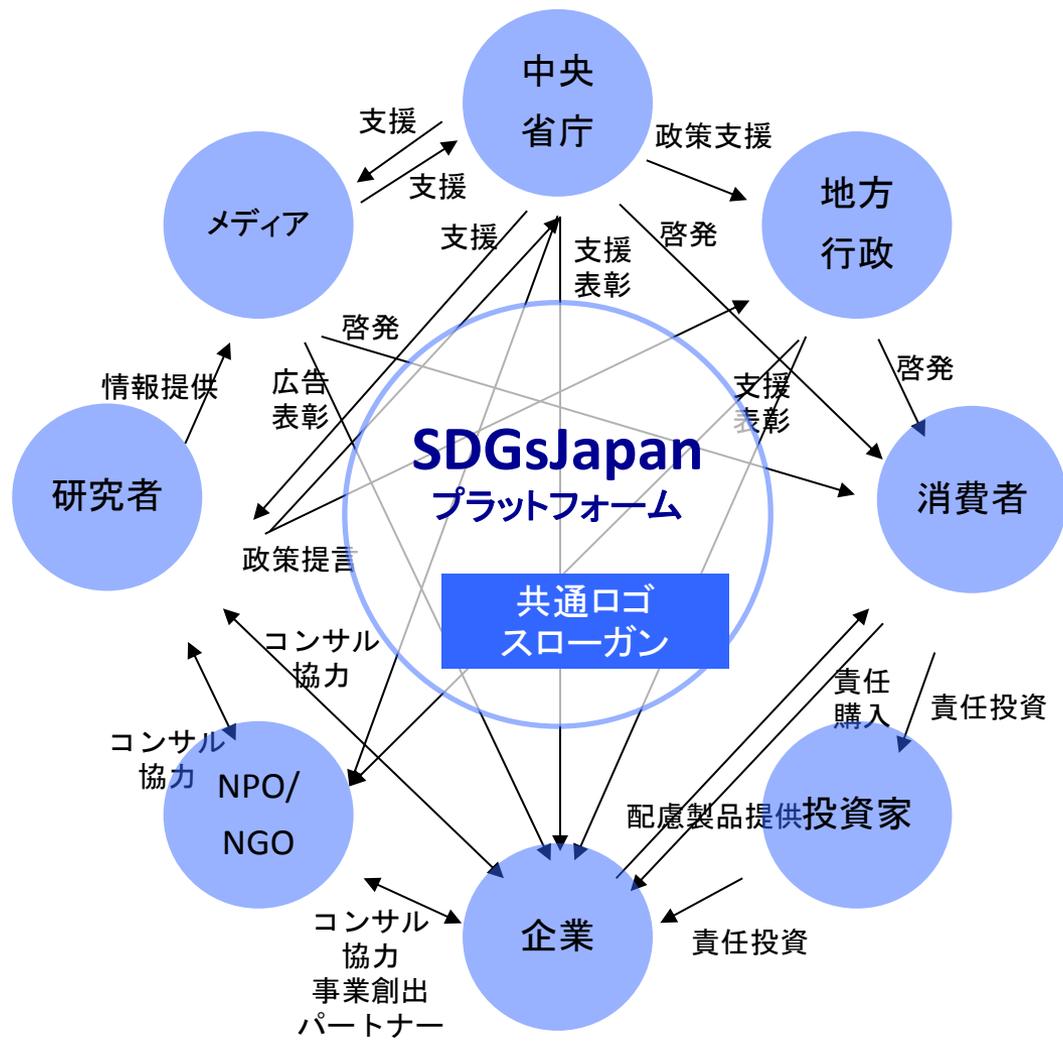
2. フォローアップとレビュー(評価)



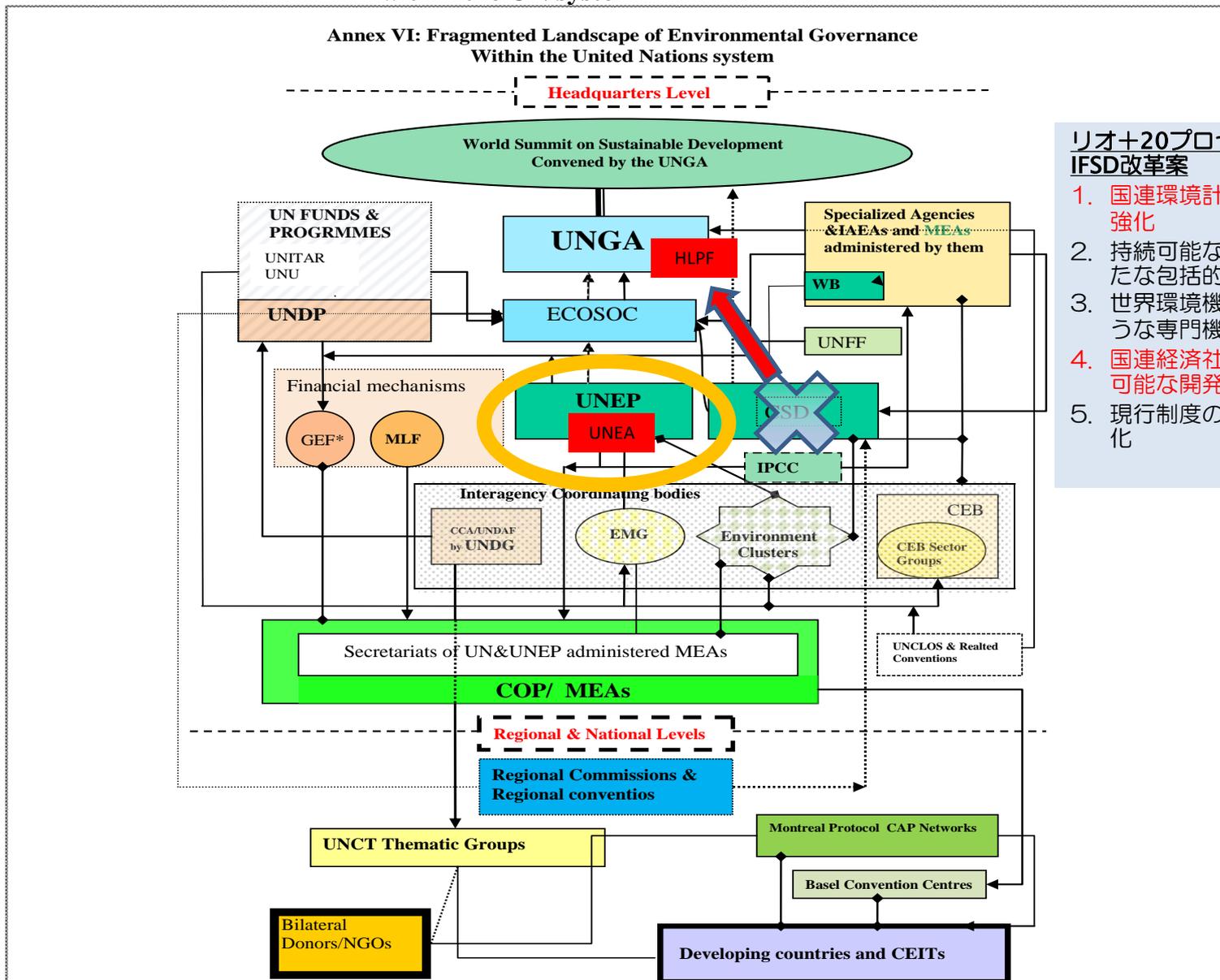
いま起きつつあること: CSRによるSDGsの主流化



action/2015 Japan



Institutional Fragmentation and specialization in environmental governance within the UN system



- リオ+20プロセスでの5つのIFSD改革案**
1. 国連環境計画 (UNEP) の強化
 2. 持続可能な開発のための新たな包括的組織
 3. 世界環境機関 (WEO) のような専門機関設立
 4. 国連経済社会理事会と持続可能な開発委員会の改革
 5. 現行制度の合理化・改革強化

*GEF serves as financial mechanisms for the implementation of UNCBD, UNCCD, UNFCCC, Stockholm Convention on Persistent Organic Pollutants and CEIT parties to the Montreal Protocol.

UNEPと国際環境ガバナンス



- 環境に関する国際政策はUNEPが調整するはずだが…
 - 人的、資金的資源不足
 - 国際環境条約のルール間の不整合、シナジーの欠如
 - 非効率的制度
 - 国連全体としての環境政策の整合性の欠如【環境政策統合の権威不足】
 - 多国間環境条約(MEA)を中心とした問題解決のしくみの並立

⇒ これまでは十分機能せず



「持続可能な開発」への組み込みとHLPFの創設により、環境の「ハブ」としてのUNEPの役割に期待